

1. 課題研究「現代における学生支援の課題と展望」(平成23~25年度)活動報告

課題研究委員会メンバー：

川島啓二(国立教育政策研究所) = 代表、沖 清豪(早稲田大学)、
青野 透(金沢大学)、 望月由起(お茶の水女子大学)、
田中 岳(九州大学)、 小貫有紀子(大阪大学)、
串本 剛(東北大学)、 小島佐恵子(玉川大学)、
橋場 論(福岡大学)

目的：学生の多様化や大学教育改革の進展によって、その広さと深さを急速に増しつつある学生支援の現状と課題について理論的・実証的に分析を行い、今後の展望を得ること。

【平成23年度】

◎大学教育学会 第33回(2011年)大会 2011年6月4日(土)5日(日) 桜美林大学
ラウンドテーブル「学生支援の実践からその問題軸を考える」

企画者：川島 啓二(国立教育政策研究所)、田中岳(九州大学)、小貫有紀子(九州大学)、
西村秀雄(金沢工業大学)、西本佳代(香川大学)、望月由起(お茶の水女子大学)
学生支援は、学生相談、キャリア支援、経済的支援、学習支援、ピア・サポートなど、その領域は大変広範なものになってきており、分野、目的、方法の多様な展開とあわせて、問題軸の構成とそれに基づく構造化が課題となってきているので、学生支援に関する実践事例から、問題を絞り込みながら、学生支援の全体像を展望する試みを行なった。

企画の趣旨(川島)

学生の主体性をいかにして高めるか～香川大学の事例から～(西本)

変革期にある学生支援 —金沢工業大学の現場から—(西村)

お茶の水女子大学・学生支援センターにおける実践と課題(望月)

参加者全員による集団思考(田中、小貫)

◎課題研究集会 シンポジウムⅡ 平成23年11月27日(日)(山形市中央公民館)
司会：沖清豪(早稲田大学)

☆「学生支援で学生はどのように変容しうるのか—ボランティア活動支援から」(2時間)

兵藤智佳(早稲田大学平山郁夫ボランティアセンター) + 学生

平尾 清(山形大学エンロールメント・マネジメント部) + 学生

☆本課題研究の基本的な考え方と今後の進め方について(1時間)

川島啓二(国立教育政策研究所)

学生支援という領域の特性(「広さ」と「深さ」)に合った研究の進め方 = 「学会内での先導的研究者による知見の深化と、学会員への還元」という形ではなく、広く学会員等の実践、経験、知見を集約しながら(プラットフォームの構築)、学生支援の全体的なデザインや課題の洗い出し、今後の展望を求める手法 → 学会員参加型 ⇒ 「学生支援研究会」

◎第1回学生支援研究会 出席者：15名

平成23年9月14日(水) 国立教育政策研究所 第2特別会議室

講師：加藤敏子(立教大学新座キャンパス学生相談所主幹)

「約30年間学生支援業務に携わっている私大職員の一事例」

◎第2回学生支援研究会 出席者29名

平成24年2月10日(金) お茶の水女子大学 大学本館122室

テーマ:『教育の場としての学生寮ーそこでの実践と課題ー』

講師:和栗 百恵(福岡女子大学 国際文理学部 准教授)

「授業での『学び』を自らの居場所に還元する学生たち

～福岡女子大学初年次全寮制における事例から」

桂 瑠以(お茶の水女子大学 学生支援センター 講師)

「お茶大 SCC の取り組み～学生支援プログラムの実践と課題～」

◎学生支援のためのデザイン・ワークショップ

平成24年2月11日(土) 国立教育政策研究所 5F1会議室

内容:大学教育改善と学生支援に係る研究デザインの構築のための意見交換とプラン検討

【平成24年度】

◎大学教育学会 第34回(2012年)大会 2012年5月26日(土)27日(日)北海道大学
ラウンドテーブル「大学教育におけるピア・サポートの位置づけ :正課と正課外の狭間で」

企画者:川島 啓二(国立教育政策研究所)、小貫 有紀子(九州大学)、

泉谷 道子(愛媛大学)、森 朋子(島根大学)

- ・企画の趣旨及び全体構成(小貫)
- ・島根大学総合理工学部のメンター制度(森)
- ・愛媛大学リーダーズ・スクール(泉谷)
- ・質疑応答とロールプレイング(小貫)
- ・総括(川島)

◎課題研究集会 2012年11月24日(土)

【シンポジウムⅣ】 会場:くにびきメッセ5階501大会議室

テーマ:学生支援に携わる教職員に求められる能力とは何か

司会者:川島 啓二(国立教育政策研究所)

シンポジスト:

川島 啓二(国立教育政策研究所)「学生支援担当の教職員のための研修の在り方について」

橋場 論(立教大学)「学生支援に携わる教職員のための能力開発とその指標」

大島 啓利(広島修道大学・日本学生相談学会常任理事)

「日本学生相談学会認定資格「学生支援士」資格について」

指定討論:小貫有紀子(九州大学)

◎学術交流セミナー「越境する学生支援～大学教育と学生相談のクロスロード」

大学教育学会課題研究(学生支援)委員会

日本学生相談学会学術交流委員会・特別委員会

2012年12月8日(土)13:45～16:45 東京工業大学 百年記念館フェライト会議室

開会の辞&趣旨説明(杉江)

報告「大学教育改革と学生支援」(川島)「学生相談と学生支援の循環から」(齋藤)

指定討論(青野、鈴木)&グループワーク&全体討論(司会:沖)

参加者:大学教育学会側:27人、学生相談学会側:33人

【平成25年度】

◎大学教育学会 第35回（2013年）大会 2013年6月1日（土）、2日（日）東北大学
ラウンドテーブル：学生支援担当教職員のキャリア・パスと求められる能力

～「越境」の光と影～

企画者：川島 啓二（国立教育政策研究所）、青野 透（金沢大学）、田中 岳（九州大学）、小
貫 有紀子（九州大学）、串本 剛（東北大学）、橋場 論（立教大学）

所属部署の異動や学生や社会の変化に応じて、多様な学生支援活動を展開せざるをえない教職
員の実態についての報告を受け、その求められる能力像や能力開発の在り方について、議論を深
めた。桐朋学園大学学生支援課学生相談室・長瀬恵氏「音大生のメンタルケアからキャリア支援
へ」と、国際基督教大学アカデミックプランニングセンター・大枝さやか氏「キャリア支援から
アカデミックプランニングへ」の事例報告。

◎課題研究集会 2013年12月1日（日）同志社大学

【シンポジウムⅢ】 会場：良心館1階RY101番教室

テーマ：「学生支援の評価～“支援の成果”を用いた評価への転換可能性～」

学生支援の営みが意識化され、大学教育における位置づけが明確になる過程で、支援の現状を
把握し、質の改善を図る手段として、評価は避けられない問題になっている。しかし、その現状
が必ずしも明らかではないことから、情報の交換・共有と理論的な知見の整理を試みたいとい
うのが、テーマ設定の背景である。全体を一貫する軸として“支援の成果”を据えることにより、
議論の焦点を絞った。大学教育一般の評価においては、1990年代から教育の成果に着目した取
組が進んでいる。おなじようなことが学生支援の現場でも起こっているのかを確認すると共に、
成果に基づく評価が学生支援においても有益であるのかを検討した。

企画者：川島 啓二（国立教育政策研究所）・青野 透（金沢大学）・沖 清豪（早稲田大学）・
田中 岳（九州大学）・望月 由起（お茶の水女子大学）・串本 剛（東北大学）・
小貫 有紀子（九州大学）・小島 佐恵子（玉川大学）・橋場 論（福岡大学）

司会者：串本 剛（東北大学）

シンポジスト：

橋場 論（福岡大学） 「認証評価にみる学生支援の評価」
小島 佐恵子（玉川大学） 「国内事例にみる学生支援の評価」
沖 清豪（早稲田大学） 「イギリスの事例にみる学生支援の評価」
小貫 有紀子（九州大学） 「アメリカの事例にみる学生支援の評価」

成果：①現代的なトピックへの注目。②ワークショップやロールプレイングなどの新たな手法
への挑戦。③学生支援に係る枠組を整理。④他学会との交流

課題：全体の体系性。一方、大学教育改革全体のトレンドが「学生」に焦点化する中で、学生
支援としての課題と一体化する傾向

展望：①個別課題（発達障害学生支援など）への対応。②他学会等との交流の継続・発展。
③学生の学修・選択行動に対応した学生支援像の模索。